

## バンカラ応援団の未来—過去と現状から見る将来性—

小野寺 李央

日本の高等学校には応援団という組織が存在しており、スポーツ競技などで母校の応援を統率し鼓舞する役割を担っている。応援団の行う応援は、所属する学校における集団的同一性を維持し、学校への愛校心を高めることなどに繋がる。様々な応援団のスタイルの中でも特殊なものとして「バンカラ応援団」がある。本論文ではバンカラの応援団が伝統的に受け継がれている岩手県の高等学校の例を基に、バンカラ応援団の活動内容や現状、将来性について研究した。

そもそも「バンカラ」とは、明治時代に西洋風な「ハイカラ」に対する皮肉として発生し、外面よりも内面を磨くという思想を表現している。「バンカラ応援団」とはバンカラの服装をした応援団のことであり、岩手県では「バンカラ六校」と称される高等学校があるほどバンカラ文化が盛んである。今回は六校の中でも岩手県立水沢高等学校の応援団に着目して研究している。

本論文では筆者在籍時の見聞に基づいた詳細な活動内容を調査し、聞き取り調査としてインタビューを行いながらバンカラ応援団の将来性について調査・考察をした。バンカラ応援団という伝統は絶やしてはならないものであり、時代に合わせ変化をしながら続いていくべきものであると結論付けた。